

都市建設部編

利便性が高く住みやすいまちへ

市の政策を連載でお伝えします。
今月号は、生活の基盤を支えるインフラを
管轄する都市建設部の注目施策を紹介します。

注目1 安心・安全な暮らしのために 道路の維持管理・橋梁の長寿命化

市道1709線を管理

市では、市の面積の約3割に相当する約8平方キロ、総延長約1709線の道路を管理しています。計画的に道路の改良や補修をするため、事業箇所の優先順位付けを行い、限られた予算内で効率的な維持管理に努めています。

都市計画道路吉野線の改良

平成27年度から本年度にかけて国道147号の本吉町交差点から東約460mの区間の改良を行っています。新たに車道を6m、両端に2.5mの歩道を設け、豊科市街地の外郭道路として安全で安心、そして円滑な交通空間形成を目指して整備を進めています。

吉野線は、小学校や高校の通学路でもあるため、この工事により、更なる歩行者の安全確保を図ります。

橋梁点検と長寿命化

本市は、南に梓川や黒沢川、東に犀川、北に穂高川や高瀬川、中心部に烏川や万水川と、移動の際にはそれら1級河川を渡らなければなりません。また、拾ヶ堰や矢原堰など、市内のいたるところに水路があり、大小さまざまな橋が架かっています。

市が管理する橋は761橋あり、そのほとんどが昭和45年から平成初期に建設されています。橋を架け替える目安は鋼橋で60年、コンクリート橋で75年、その他の構造で50年とされており、今後20年で建設後50年を超える橋は全体の約73%まで増加する見込みです。

市では、莫大な費用と時間をかけて橋を架け替えるよりも、損傷が大きくなる前に予防的な対策を講じ、橋の長寿命化を進めています。5年を1サイクルとして橋梁を点検

市が管理する橋梁の数と経過年数

経過年数	地域の橋の数				
	豊科	穂高	三郷	堀金	明科
30年未満	58	39	37	47	24
30年以上 50年未満	107	179	89	42	102
50年以上	10	1	14	2	10
20年後					
30年未満	7	2	0	4	5
30年以上 50年未満	51	37	37	43	19
50年以上	117	180	103	44	112

し、昨年度末までに約半数となる374橋の点検を終えました。また、点検結果を踏まえ、橋梁の長寿命化修繕計画を策定し、平成26年から計画的に補修工事を行っています。昨年度には、新ごみ処理施設南側に架かる「等々力大橋」の補修工事が完了しました。今後も皆さんが安心して通行できるように、計画的に補修していきます。

注目2 地域課題の解決のために 暮らしが変わる大規模整備事業

松本糸魚川連絡道路

松本市と新潟県糸魚川市を結ぶ全長約100kmの高規格道路、通称「松糸道路」。長野県は昨年8月、本市の新設区間（安曇野道路）はAルートが最適であると決定し、さらに本年6月には、約10km幅に絞ったルート線の発表に併せ、地域の皆さんに説明会を行いました。

9月16日には都市計画決定がなされ、安曇野道路の新規事業化に向けた大きな一歩を踏み出しました。

黒沢川調節池整備

黒沢川は、最下流部が用水路の堀廻堰に接続する、いわゆる尻無し川のため、増水時に氾濫し、浸水被害が発生したこともありました。

昨年度から、黒沢川の流域治水対策を長野県が主体となって進めており、増水時に一時的に水を貯め、下流に流れる水量を調節するための調節池の整備が始まりました。既に伐採などの整地がされ、現在は護岸・護床工事や堰上げ施設の設置を進めています。また市では、調節池整備

明科駅前周辺整備

明科駅前の国道19号は、交通量が多く歩道もないため、長い間交通事故発生危険性がありました。

平成26年度に明科駅前歩道整備が事業化されたことを契機に、「明科駅前周辺まちづくり計画」が地域住民や地元高校生らによる6回の懇談会を経てまとめられました。

この計画に基づき平成30年度から令和4年度にかけて、駅前広場や周辺道路、近隣公園の整備など、駅周辺の再整備と商店街のにぎわいを創出し、安曇野市の東の玄関口にふさわしいまちづくりを進めています。

に合わせて赤沢橋の架け替えを含む市道改良を計画しています。



松糸道路完成イメージ

トピックス

塩カル散布車を購入

平成9年から冬期間に活躍した塩カル散布車が令和2年3月、老朽化のためその役目を終えました。新しい車両は国の補助金を活用して購入し、令和2年11月に上原水防倉庫に納車されました。塩カル散布や除雪作業は、朝4時ごろから開始し、通勤通学の時間までに作業を終えるよう努めています。

大規模盛土造成地マップを更新

一定規模以上の盛土を行った場所を示している大規模盛土造成地マップ。昨年行った調査では、該当箇所が市内で7カ所あることが分かりました。マップに示されている盛土が必ずしも危険というわけはありませんが、防災意識の向上などにお役立てください。



部長ミニインタビュー



都市建設部長 坪田 浩昭

安曇野の社会基盤を支える

都市建設部では、土地利用制度や都市計画から、道路・公園等の整備と維持管理、さらに住宅・景観政策など、幅広く市の社会基盤に関する業務を担当しています。また、国や県の事業にも連携して取り組んでいます。

事業の実施には、市民の皆さんに十分な説明を行い、意見をお聞きしながら一緒になって進めることが何より大切であると考えています。また、施設の整備や維持管理にあたっては事業者の皆さんとの連携も不可欠です。

これからの安曇野のために、今どんなことが必要かを常に考えながら、引き続き市民・事業者の皆さんと共に魅力ある安曇野市づくりに取り組んでいきます。

都市建設部の仕事 道路や公園の維持管理、開発や土地利用など

都市建設部は、監理課・建設課・都市計画課・建築住宅課の4課で構成され、住みやすく、安心で安全なまちづくりのために地域インフラを整備しています。それぞれ、道路や橋梁の維持補修、河川の改良、災害復旧、公園の維持管理、適正な土地利用の条例に基づく都市整備などを担当しています。



住宅の耐震補強工事や生垣設置に対する補助金、子どもの誕生や住宅を取得した際に記念樹を配布する事業も行っています。